

栃木県産木材を 100%使用した“地産・地消”の木造店舗 「セブン-イレブン宇都宮新町 1 丁目店」がオープン ～標準型店舗の木造化に向けた実証第 1 号店として～



株式会社セブン-イレブン・ジャパン（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：阿久津 知洋、以下「当社」）は、栃木県宇都宮市内に、栃木県産木材を活用した木造店舗「セブン-イレブン宇都宮新町 1 丁目店」（以下、「当該店舗」）を 2 月 12 日（木）にオープンいたします。

当該店舗は、県産木材を 100%活用した“地産・地消”の木造店舗であり、当社における標準型店舗※の木造化に向けた実証第 1 号店として位置づけています。

今回の出店は、栃木県が推進する「令和 7（2025）年度“とちぎのいい木”非住宅建築物ウッドチェンジ事業」を活用し、県産木材の利用拡大と脱炭素社会の実現への貢献も目指しています。建築における県産木材の積極的な活用を通じて、地域資源の循環と環境負荷の低減に取り組んでまいります。

当社は今後も、地域の皆さまと連携しながら、よりよい社会の実現に向けた取り組みを推進してまいります。

※店舗面積やレイアウト等が標準的なセブン-イレブン店舗のこと

■取り組みのポイント

①「“とちぎのいい木”非住宅建築物ウッドチェンジ事業」を活用

当該店舗は、非住宅建築物の木造化・木質化を支援する栃木県の事業を活用し、県産木材の利用拡大につなげています。

②栃木県産木材を 100%活用した“地産・地消”の最新店舗

当該店舗は、構造材を含めて県産木材を 100%採用しました。内装にも県産の杉を用いることで、木の温かみを感じられる店舗空間に仕上がっています。標準型店舗の木造化に向けた実証第 1 号店として、経済合理性と“地産・地消”の両立を図ります。



※木材を使用したバックカウンターの壁面



※木材を使用した店内の柱

③建設段階からの CO2 削減を見据えた工法の検討

地盤改良においては、従来のセメント系工法に加え、県産木材（杉）を用いた木製杭工法（通称：環境パイル工法）を取り入れることで、建設から解体までのライフサイクル全体を見据えた CO2 削減に貢献しています。



※環境パイル工法を用いた工事の様子

ご参考：「森の国・木の街」づくり宣言

当社は、林野庁が募集する『「森の国・木の街」づくり宣言』に参画しました。本宣言は、森林の恵みを将来へつなぐために「植えて、育てる」ことに加え、木材を積極的に「使う」ことの重要性を踏まえ、建築物の木造化等による木材利用の推進や、その効果の「見える化」などに取り組む自治体・企業等の参画を呼びかけるものです。

当社は今後も、地域の皆さまと連携しながら国産木材の活用をはじめとする環境配慮の取り組みを進め、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。



「森の国・木の街」づくり宣言



我が国の豊かな森林の恵みを未来へしっかりとつなぐためには、「植えて、育てる」ことに加え、「使う」ことが不可欠です。私たちは、木材の利用を通じて森林整備の促進と地球温暖化防止に貢献するとともに、木とともに生きる地域の未来を育む「森の国・木の街」づくりに取り組むことをここに宣言します。

- ✓ 木材利用の拡大を通じて、脱炭素社会・循環型経済社会・自然共生社会の実現に寄与し、地域の活性化に貢献します。
- ✓ 店舗の建築において、木造化などを通じて木材利用を推進するとともに、SHK制度などを積極的に活用し、地域社会および関係各社と連携することで、木材利用効果の“見える化”に取り組みます。

株式会社セブン-イレブン・ジャパン



以上